

な か ま

発行

佐倉市立中央公民館
な か ま 編 集 係

〒285-0025

佐倉市 錦木町 198-3

電話 (043) 485-1801

2 ページ 愛 犬 ----- 澤谷 泰子 白杵磨崖仏 ----- 斎藤 雄
3 ページ ピカソ ----- 村田 長保 記憶のメカニズム ----- 金井 義彰

鷺 山

岩 淵 幸 雄

「駅のまわりは、あんなに賑やかになったのに、この団地は駅のすぐ側だというのに静かで、当時とちつとも変わってないのね。もつとも三十年以上ともなれば、建て替えられた家も目立つけど、全く静かで良い街になったわね。すぐ側には、緑いっぱい、里山も残っているし、田ん圃も小川もあって、散歩にもってこいの環境だわ。あの森よね。父が来た時、俳句に詠んだ鷺山というのは。」

藤懸けて

鷺山夜をはなれけり
今もあの当時のままだわ。

ただど下の小川、コンクリートで固められ、フェンスを張りめぐらして、折角の風情が台なしね。あれじゃ蛭はもう棲めないでしょ。やはりね。

これだけ住宅が増えたのだから仕方ないかもね。そのせ

いかしら、あんなに沢山棲みついていた白鷺は、どうしちやつたのかしら。今朝は二羽しか居なかつたわ。

ナナと一緒に散歩してたら、同じように犬の散歩してる人、ジョギングの人、夫婦連れでウォーキングの人など、色んな人達に出会ったわ。お互いお早ようございますと挨拶を交しながら、殆ど年配の人達だったけど、皆元気で、楽しそうだった。自動車もあまり通らないし、安心して歩ける良い道ね。そしてほら、田ん圃の向う側の記念碑。あの台座で一休みしながら眺める景色、なんとも言えなかつたわ。眼の前が一面に広がる田ん圃、その向う右手に鷺山。左手にきれいに並ぶ住宅群。その上手に聳える駅ビルと高層マンション、そして青い空。ザーっと遠くから音が聞こ

え、鷺山の右端を見たら、あれがスカイライナーって言うのね。白い電車が成田の方へ走って行った。ナナと一緒にしばらく見とれちゃったわ。

それにしても、駅のまわりのマンション、すごいわね。三十階建てが四つもあるのにまだ、こつちの方にも建ててる。映画館や、お洒落な店が次々出来て、まるで東京が移って来たみたいじゃないの。

歳とつて、もう東京まで通う仕事も無いし、ここに居て都会と田舎両方の暮らしが味わえるという訳ね。もう田舎なんて言ったら叱られちゃうかもね」

昨年の夏、三十年ぶりに来てくれた姉。あの頃は、どうして佐倉なんて田舎へ引っ越しちゃったの」と言ってた姉も、どうやら納得して帰って行った。長年都会暮らしの姉にとつては、どんなに良い環境の街にも、都会らしさは欠かせぬものらしい。

(編集委員)

愛犬

十二年前、生後四十日で我が家に来たベージュ色の犬。名前はマルディ、女の子、とても可愛い、飼い主に似て大らしい。玄関のチャイムが鳴ると「ワンワン」うるさい、でもお散歩で外に出ると、まだ十二年間吠えたことがない。大きなマルディ専用のイスにいつも寝ていることが多くあった。白髪も目立ってきたある日マルディの背中をなでていると、もつともつとなでてと催促をする。

マルディ「私にどうしてこの名前を付けてくれたの、話してほしい、知りたいわ」
私「マルディのお母さんはね、二十年前湯島天神の境内に置かれていたの。その時偶然柏のおじ様が見つけて、あまり可愛いので柏のお家へ連れて帰り育てることにしたのよ。お母さんの名前はね、マルコと付けたの、柏の皆で」

マルディ「何も覚えてないわ、それでどうしたの」

私「八年後にマルディが生まれたのよ。早速お父さんとお母さんと二人で柏に行つてここに連れてきたのよ。名前は母親のマルをもらい、マルディはフランス語で火曜日というの。丁度十二年前の火曜日に生まれたから付けたのよ」

玄関でチャイムが鳴りお友達がいらつした。話が終わり「じゃ、またね」と立ち上がったら、マルディが友達に向つて「ウーウニャ」と繰り返した。友達はびつくりして「わぁお喋りする犬なの、何て言つたか通訳してよ」

「お構いもしないでごめんなさい。でも今度いらつしやる時には必ずお土産を持って遊びにいらつしてね」と言っているのと通訳した。

大笑い、マルディも一緒に笑っているようだ。心が和んだ。

(並木町 澤谷 泰子)

臼杵磨崖仏

うすき まがいがぶつ

歴博入口の愛宕坂に臼杵磨崖仏の模造がある。私はかねてからこの実物を見たいと願っていたが、この度チャンスが到来した。大分市で生活している娘一家に再会と同時に今までは遠くて縁がなく、なかなか実行できなかった臼杵石仏を見学することができた。

総数六十体を超える臼杵石仏は四群に分かれ、そのうち五十九体が国宝という。目的の磨崖仏がある古園石仏は、見学コースの坂を登つて中腹の位置、大日如来像を中心とする十三体を目の当たりにした。もとは頭部が地に落ち、ほかの体の一部も欠けていた写真が傍らに展示してあった。私はこれまで、歴博入口にその模造が安置されている理由(文化庁で復元計画して歴博開館と同時に展示し、大日如来像と共に他の十二体も順次復元する構想があつたと聞

く)しか知らなかつた。

しかし今回見事な実物を見学できたことに加え、臼杵石仏の由来を知ることとなつたのである。限られた紙面で概略を記述すると、その物語は遠く飛鳥時代にさかのぼる。

発祥の地は豊後の国大野郡三重町とのこと。炭焼き少年の小五郎が後に縁あつて美しいお姫様を賜つたのがきっかけで長者となり、真名野長者の名で敬愛された。この長者の発願で三重町の蓮城寺というお寺を開いた蓮城法師が臼杵に場所を変え満月寺を創建した。そして近くの岸壁(臼杵市深田)に平安後期から鎌倉時代にかけて、仏像が彫られたと伝えられている。

そこには石仏建設の発端となつた、飛鳥王朝の大ロマンを垣間見た思いがした。壮大な実物をこの目に刻むことができた幸せを味わつた。

(石川 斎藤 雄)

ピカソ

一日に数枚、何十枚と描け
そうな油絵がまず承認し難い。
一年に一枚、いや一枚の絵に
二、三年かけている過去の美
しい絵に対する冒瀆、或いは
敗北ともとれる。恐らく“敗
北感”があのようなバケモノ
じみた絵をもたらしたのでは
ないだろうか。

例えば先の東京都現代美術
館のピカソ展で、「ラファエロ
とラ・フォルナリーナ」と題す
る二十枚ほどの素描シリーズ
が展示されていたが、あれな
ど同主題のアンゲルの絵を念
頭に作成したことは明らかだ。
ラファエロといいアンゲルと
いい、絵画の王道を歩んだ巨
匠中の巨匠。その二人を同時
にカリカチュアライズしてし
まうことは画家にとつてたま
らぬ快感であったと思う。

アンゲルはこれ以上はない
と思われる真摯なオマージュ
として、画室で抱擁し合う若

い恋人同士を描く。ラ・フォ
ルナリーナは天使のようだし、
ラファエロも椅子に腰をおろ
し、自分の絵を振り返る横顔
が純粹無垢で、いかにもあの
“聖母子像”を描いた画家と
いう面立ちである。

ピカソはこの絵を乗り越え
ようとしたのではないか。若
い頃の夢はラファエロ、アン
ゲルが目標だったのではない
か。そして美しい女性ラ・フ
オルナリーナも別の意味で目
標だったのかもしれない。そ
して結局乗り越えることを断
念し、全く逆のバケモノを生
んでしまった。そうでなくて
は二人の性器まで描く意図が
分からない。

(新白井田 村田 長保)



記憶のメカニズム

人間、歳をとるとちよつと
まえのことや最近のことは、
すぐ忘れてしまい記憶が定か
でなくなるのに、昔のことは
比較的よく憶えているとい
ますが、実際はそうではない
と思います。

昔のことも憶えているの
はごく一部で、大部分は忘れ
ているのに、忘れたことをよ
れてしまつて、昔のことをよ
く憶えていると錯覚している
のだと思います。

水上勉の随筆に、「記憶の底
を浚つて」というような表現
がありました。記憶の底を
浚うと、昔の断片的な記憶が
ときに鮮明に蘇ってくるこ
とがあります。

平成も、今年でもう十八年、
昭和も遠退いてきました。二
月になると、思い出すのは
昭和十一年の二・二六事件の
ことです。このとき私は、小
学校にあがる一年まえでした

が、翌朝、早く帰宅した父か
ら聞いた事件のことは、いま
でもはつきり憶えています。
しかし、その前後のことは、
きれいに忘れていきます。

二十年三月十日未明の東京
大空襲のときは、市川市内に
住んでいましたが、省線の最
寄りの駅の本八幡駅の跨線橋
のうえからみていました。江
東区方面が一面真っ赤に燃え
て、火の粉が空高く舞い上が
る凄まじい光景に一瞬、息を
のみました。

あとで考えると、空襲警報
が発令されB 29の大編隊が飛
来している最中に、しかも真
夜中に、何故、駅まで出掛け
ていったのか思い出せません。
人間の脳の記憶容量に心じ
て、どうでもよいものや印象
の薄いものから記憶を消して
いく。そしてまた新しいこと
を記憶していくといったこと
ではないかと思えます。

(中志津 金井 義彰)

2月の黒板

『なかま』原稿募集のお知らせ

『なかま』の2・3面は、市内の皆様の投稿によって作られています。原稿は随時募集しています。

- [原稿規定]** 字数 650字(13字×50行)以内。ワープロによる原稿(縦書き)でも結構です。
- 内容 随筆・・・日常の出来事、生活の中で発見したこと、気付いたこと、経験や感想などご自由にお書きください。

『なかま』に対するご意見・ご感想などもお待ちしております。
いただいた原稿は、掲載するにあたり常用漢字への変更や、句読点等修正させていただきます。

問い合わせ 佐倉市立中央公民館 (第2・第4月曜日は休館日です)
URL <http://www.city.sakura.chiba.jp/kominkan/cyuuou/index.htm>

さくら道

少し前のこと、「なでしこ中高生美しい日本語選手権」が放映されていた。

言葉の知識に自信を持つ少女たち五人が問題に挑戦していた。「破天荒」「折り紙つき」といった、日常会話で使われる言葉の用法が正しいかどうかの問題。次にキモイ、ウザイのアニメのせりふを美しく分かりやすい日本語に置き換

える。一对、一双といった物の数え方。ことわざの意味など小気味良い回答がつづき、決勝戦は「東の空がわずかに明るくなる頃」の言葉は？に一人は曙、一人は東雲、で後者が優勝。直後、画面には両者正解とあった。ちなみに夜明けの表情として、暁、東雲、曙、朝ぼらけ、朝あしたになり完全に夜が明けるとか。
深い知識から紡ぎだされる若者たちの美しい言葉が耳に心地よかった。

あとき



私は手繰川の下志津橋から畷田橋周辺を散歩コースにし、健康維持に努めています。

くるまは少なく、犬の散歩コースにもなっています。犬の糞害については前号で取り上げられましたが、もう一つ不愉快なことがあります。

それはゴミの不法投棄です。市が片付けても片付けても跡を絶ちません。年末は特に目立

ちます。

懲役五年以下、罰金一千万円以下の看板に挑戦するよう投棄していきます。個人なのか、業者なのか定かでないが、自分さえ良ければの姿勢は頂けません。何故我慢できないのでしょうか。立看板だけでは効果がありません。道徳心のない人に何をいっても無駄でしょうが、何か効果的なアイデアはないものでしょうか。読者の皆様の良きご提案を承りたいと思います。

(石崎)